

カワバタモロコ *Hemigrammocyptris rasborella* Fowler

【選定理由】

群れをなし多産する種であるが、生息する水路のコンクリート化や直線化工事等による水田用水路の環境変化及び外来魚による捕食が減少に拍車をかけている。

【形態】

体長 6cm。タモロコに似るが、口ひげは無い。また、腹縁がキール状になっている。側線は不完全で胸鰭上方までしか達しない。縦列鱗数は 30~35 枚である (細谷, 2013)。体側には黒色の縦帯がある。産卵期の雄は色鮮やかな黄金色になる。雌は、雄より大型になる (前畑, 2001)。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張地方 (犬山市、瀬戸市、長久手市など)、三河地方 (新城市、豊田市、岡崎市、刈谷市など)。

【国内の分布】

本州中部以西から九州北西部。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

平野部の浅い池沼、溜池、小川、水路などに生息し、群れを作り表層付近を遊泳する。産卵期は 5 月中旬から 7 月下旬で、地域により若干差がある。付着藻類から水生小動物など幅広く食べる雑食性である (前畑, 2001)。

【現在の生息状況／減少の要因】

個体数は比較的多いが、きわめて限られた地域で確認されるにすぎない。都市化にともなう河川整備、圃場整備による水田用水路の劣化や消失、水質汚濁を含む生息環境の悪化が進行したことが、減少の主たる要因である。加えて、オオクチバスなどの外来魚による捕食の影響も大きいと推測される。

【保全上の留意点】

カワバタモロコの減少の主因であるコンクリート化を避け、すでに護岸がなされた水路については、適切な補修・改修等を考慮する。繁殖場となるワンドや浅場を確保することも必要である。外来魚の捕食圧を低減させる対策を講じることも重要である。室内での繁殖についてはコイ科魚類のなかでも比較的容易であるため、施設内での系統保存などを行い、野外で生じ得るさまざまなリスクに対応できるようにしておくことが望ましい。

【特記事項】

黄金色に輝く雄の婚姻色には観賞魚として価値があるため、乱獲の対象となる。また、増殖目的で人工繁殖個体を生息地以外に放つ「善意の放流」で、遺伝子汚染が生じる危険性がある。豊田市や西尾市では、天然記念物に指定されている。また、種の保存法で特定第二種国内希少野生動植物種に指定されている。

【引用文献】

- 細谷和海, 2013. コイ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, pp.308-327, 1813-1819. 東海大学出版会, 神奈川.
前畑政善, 2001. カワバタモロコ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 改訂版, pp.256-257. 山と溪谷社, 東京.

【関連文献】

- Watanabe, K and S. Mori, 2008. Comparison of genetic population structure between two cyprinids, *Hemigrammocyptris rasborella* and *Pseudorasbora pumila* subsp., in the Ise Bay basin, central Honshu, Japan. *Ichthyological Research* 55: 309-320.

(浅香智也)